

※個人や企業が特定される部分、業務内容に関わる部分についてはCeFILで一部修正しています。

指導概要	
1	トレーナーを専任で1名配置し、朝会、夕会にて、予実管理を行うとともに、テーマ課題の解決に向け一緒にディスカッションを行い、遂行情報課題や悩み、解決策等を明らかにする支援を行うことで、当初想定通り業務を完遂出来るよう指導した。
2	1対1でアドバイザーを設置することに加え、毎日日誌に記入させ、アドバイザーから記入内容への回答(アドバイス)することでフォローを実施した。また、情報技術関連の講義・保険業務に関する講習の受講、上流工程体験ワークショップへの参加など、実際の企業でのシステム開発に必要なエッセンスを学習・体験できるカリキュラム構成とした。
3	指導員を1名アサインした。テーマ決め、途中報告、最終報告等において適宜チームミーティングを実施し、方向性のアドバイス等を実施した。
4	業務に関するシステム案件がほとんどであることから、業務に関する説明を実施。また、報告書の作成方法や、プレゼンの仕方、報告期限の順守の重要性について指導。
5	当初掲げたテーマは大枠的なものであり、具体化は当人に依るアイデア出しも含めて、当方からの助言も入れつつ主体的に進めてもらった。また、プレゼンテーションを行うことも重視し、関連するチームメンバーの前で何度かプレゼンをしてもらい、そのフィードバックを行っている。
6	指導員を1名アサインし、日次でミーティング【朝夕30分ずつ合計1位時間）を行い、学生の理解度を常に確認しながら進めた。また、成果説明の場を3回（技術開発本部長、ソフトウェア工学推進センタ長、及び技開本全体）設け、プレゼンテーション及び質疑応答に関する経験を積めるように配慮した。
7	仕様を検討する際には、シナリオ分析手法などを利用しました。また、開発する機能に関しては、実際の開発現場での実状を説明し、どのような機能が必要になるのかを理解してもらえるように心がけました。
8	OJT型の指導を行いました。実業務を担当していただき、それを進める上で必要になるスキル(プログラミング技術、テスト手法、プレゼン表現を含む)を指導しました。
9	よくある一般的な座学のようなものではなく、現地現物の体験型指導を心がけ、良い所も悪い所も含め、当社で働くとはどういうことなのか？を知ってもらう。 また、インターン終了しても、期間中に得た経験・技術を使って、技術的に新たな分野にどんどんチャレンジしていけるように、こんな世界もあるよと近未来の話をした。
10	基本設計工程：面遷移図、画面定義書、データベース定義書の作成 詳細設計工程：処理詳細定義書、入力チェック定義書、入出力対応定義書の作成 コーディング工程：WEBアプリケーションの実装（言語：PHP 規模：0.8Ks） 試験工程：単体試験チェックリストの作成
11	達成目標を段階的に設定し、当初は易しく、研修が進むにつれ達成が難しくなる課題設定をした。各目標を達成するため、アサインした指導員がアドバイスを与え、また、ツールの動作を確認しつつ最終目標に向け業務を進めた。
12	弊社で開発している技術の適用事例を示すためのデモシステムの周辺アルゴリズムの一部開発してもらった。この際、まずは基礎技術内容を教授、また周辺知識としての関連技術を伝授した。指導者は特定の社員をアサインした。終了後のアドバイスとしては、成果の分かり易いプレゼン方法を指示した。
13	指導者は、直接本業務に関係のある中心人物をアサインした。そのため、実際に必要とされている技術を学んでいただくことを中心に業務のアサインを行った。
14	適宜必要なタイミングで進捗と問題点の有無を確認しました。
15	インターン期間である1ヶ月で開発が完了する案件を選定し、指導員を2名アサインした。業務内容がNOTES DBによるシステム開発だったため、Notes開発スキル習得用のテキストを事前に提供するとともに、インターンシップ期間中に指導員より開発方法の説明を実施し、問題なく進めることができた。
16	指導員(2名)の下、実際の業務以外にも、日々のWBS管理やメールのチェックなども実施してもらい、SEの日常に触れてもらった。大人しい性格の方だったので、積極的に先輩とコミュニケーションをとれるよう促し実施した。
17	他のインターン生と二人での共同作業であったこともあり、業務遂行上のコミュニケーションの重要性を最も重視した。その延長線上として読む側が理解しやすいドキュメント類の制作について等も指導をおこなった。
18	技術調査、プランニング、プレゼンテーション(発表/作成)、UML、iOS SDK(Swift)、iOS8 new function(Today Extension)、SQLite3、テストデザイン、Android

19	3週間で実施できるシミュレーション環境の性能評価及び適切なパラメータ検証を行っていただいた。その中で業務の進め方を指導し、最終的には報告会を実施。報告資料は、相手に分かりやすく伝えるにはどうすればよいかの視点で指導を行った。
20	Java programming, jQuery and working with JAX-RS API
21	ウォーターフォールモデルに沿ったシステム開発に取り組んでもらい、各工程で必要となる視点・考え方を指導した。特に、大学では重要視されていなかった設計工程、試験工程については、例外処理・試験パターンの網羅等の重要性を認識してもらい、実作業において注意すべき観点をレビューを通じアドバイスした。
22	銀行業務に関するシステム案件がほとんどであることから、銀行業務に関する説明を実施。また、報告書の作成方法や、プレゼンの仕方、報告期限の順守の重要性について指導。
23	演習を通し、運用データの管理技術や高速処理技術を理解してもらい、ORACLEデータベース(DB)のDBアクセス手法を習得してもらうと共に、開発演習を通して開発プロセスやQCDの重要性についても指導を行った。
24	光伝送システムのキー技術である光増幅技術について、その動作原理の勉強から、実際に自身で光増幅器の作成・評価までを行ってもらいました。また、リモート光増幅器という将来技術についても、その必要性を理解してもらい、その特性評価を実施してもらいました。作成・評価は、5年目の社員のOJTのもと、測定方法や融着などを指導しました。終了後のプレゼン資料のまとめには、時間を費やし、その目的・まとめ方などをアドバイスしました。
25	業務内容や目的、今後のビジネス展開について説明を行い、業務の重要性を説明。その後、業務のスケジュール作成を行い、業務を開始した。毎日の夕会による報告の他に随時質問等が出来るチャットを作成し、必要に応じて打合せを実施した。
26	学生に対してメンター(指導員)をつけ、目標達成に向け取り組みました。
27	MBAを判り易く記載した文庫本を渡した。通勤中に勉強していたと想定している。SWOT分析などを活かして、ストーリーのある資料を作成することができた。
28	<ul style="list-style-type: none"> 銀行業務システム(Webアプリケーション)の機能追加開発: 開発環境構築、Javaアプリケーションの製造 銀行業務システム(Webアプリケーション)のテスト実施: 業務案件内容理解、システム設計書作成、システムテスト実施
29	<ul style="list-style-type: none"> ①QlikView(製品)の学習 QlikViewチュートリアル実施により、QlikViewの基本的な使い方を習得 ②Nprinting(製品)の学習 メンバが過去に検証した内容を再現することで、Nprintingの基礎を習得 ③Nprinting(製品)の検証 Nprintingを提案する構成を決めるために必要な項目を検証
30	認証技術の学習ならびに、システム開発工程の理解してもらうことを主として指導した。与えられた仕事を実行するためには、計画が大切であることを学習アドバイスとした。
31	指導員を一名アサインし、機械学習分析エンジンの性能評価、並びに関連製品の調査を指導した。指導員には、年齢的に近い入社2年目の若手をアサインし、気軽に話ができるように配慮。新しいIT技術なので、勉強することが多く、特に最初の頃は苦労していた様子。
32	期間内で目標を達成できるようにメンターを中心に部内の多くのメンバーでサポートをし、孤立しないように心掛けた。異なるチームのメンバーからレビューをしたり、他のメンバーとも関わる機会を多くした。
33	<ul style="list-style-type: none"> 各種進捗定例会に参画し、プロジェクト進捗の管理手法を実感する。 管理ツールを作成し、作業効率化を実感する。(設計～テストまでを実感)
34	実習生に指導員(課長代理クラス)を1名アサインし、当社のソフトウェア開発ツールや開発手法を学習していただきました。実習テーマは被験者実験を通じてツールの効果を測定することであり、指導員の指導のもとで、実験の計画や実施、測定データの分析、成果発表会を実施しました。研修期間は日報や朝会で日々の指導を行い、実習終了時に責任者(課長)と指導員から面談でフィードバックを行いました。
35	部署の業務の一部である通信ソフトのカスタマイズやテスト環境準備及びテスト実施を体験。当社におけるその業務の位置付けを説明。